

2022 年度診断評価等基準委員会 第 3 回委員会 議事録

開催日時：2022 年 9 月 21 日（水）19 時 30 分～21 時 30 分

開催場所：Web 開催

出席者（敬称略）：筑田博隆、高橋淳、大和雄、関口美穂、加藤壯、池上章太

欠席者（敬称略）：なし

議題

1. 筑田理事の挨拶

先日の理事会において当委員会大和委員の成人脊柱変形の新規評価法開発プロジェクトについて進行の承認を得たこと、日本側彎症学会より大阪公立大学高橋真治先生、新潟大学渡辺慶先生の参加をいただくことについて了承を得たことを報告。

2. 研究計画書の説明、議論

- ・成人脊柱変形包括的新臨床評価指標（プロジェクトリーダー：大和委員）

プロジェクトリーダーより説明があり、具体的な研究の進め方、まとめ方に際し議論がなされた。

従来指標より状態反映し、重症度や手術成績の評価可能で、高齢者でも答えやすい質問票を作成する。研究計画としては、3段階（①質問項目の作成、②適切な質問項目の抽出と新質問票の作成、③新質問票の有用性・妥当性の検証）の順で研究を進める。対象は①については ASD 術前後患者（40－79 歳）、②については①に加え健常者（上肢疾患患者で脊椎疾患がない者を想定）、③については①と同様。質問票はいくつかのドメインに分かれているものを想定（案：日常生活動作、痛み、臓器障害、心理面、整容面、不撓性）。研究に先立ち、JSSR の倫理審査をまず通しておくべきかどうか、確認を行うこととなった。

・胸髄症におけるアウトカム評価法の検証（プロジェクトリーダー：加藤委員）

プロジェクトリーダーより説明があり、具体的な研究の進め方、まとめ方に際し議論がなされた。

胸髄症評価としては頸椎 JOA スコアから上肢分を引いたものが広く使われているが、これが正しいかどうかの評価がなされていない。この学術的疑問を解決するため JOA スコアを中心にいくつかの既存の評価法が胸髄症評価として使えるのかどうかの検証をまず行う。検証の結果によっては新規評価の開発に繋が

る可能性もある。一連の研究の流れについて、次回委員会でプレゼンテーションを行うこととなった。

・次回委員会日程について（高橋委員長）

第4回 10月6日（木）19:00～20:00 全員：研究計画書の説明 議論